

---

# 男里川水系 河川整備計画（素案）について

---

# 前回審議会での委員指摘事項

	本文頁	箇所	指摘事項	内容
			対応方針	内容
①	2	第1章 河川整備計画の目標に関する事項 第1節 流域及び河川の概要 2. 流域の特性 3) 自然環境	指摘事項	常緑樹林化が進んでいるのでアカマツ群集が分布しているか確認すること。
			対応方針	モチツツジーアカマツ群集の記述については削除
②	2	第1節 流域及び河川の概要 2. 流域の特性 3) 自然環境	指摘事項	河口部における種の記述が不足しているのではないかと。
			対応方針	修文（河口部の種を追記）
③	7 ほか	第2節 河川整備の現状と課題 1. 治水の現状と課題	指摘事項	脚注3) 4) 15) 19) の表現を修正すること。
			対応方針	修文（男里川流域では泉南地区の計画雨量を適用する旨を記述）
④	9	第2節 河川整備の現状と課題 2. 河川利用及び河川環境の現状と課題 (4) 景観・親水性	指摘事項	現状の問題点の記述に留まっている項目があるため、課題についても記述すること。
			対応方針	修文（課題を記述）
⑤	10	第3節 流域の将来像	指摘事項	男里川水系は現状で水質が良いので「水質の維持」と表現するべきではないかと。
			対応方針	修文（「水質の改善」⇒「水質の維持」）
⑥	13 ほか	第4節 河川整備計画の目標 3. 河川環境の整備と保全に関する目標	指摘事項	自然環境について、河川整備基本方針では「保全・創出」となっているが、河川整備計画では「保全・再生」となっている。
			対応方針	修文（「保全・再生」⇒「保全・創出」）
⑦	16 ほか	第2章 河川整備の実施に関する事項 第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	指摘事項	図面を分かりやすく修正すること。
			対応方針	図面を修正
⑧	21	第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項 第1節 地域や関係機関との連携に関する事項	指摘事項	森林の保全やため池の維持管理についても記述すること。
			対応方針	修文（記載内容を修正）
⑨		上下流バランスについて	指摘事項	金熊寺川の整備による下流の男里川への影響を確認すること。
			対応方針	男里川は現況で1/200の安全度があるため、下流への悪影響はないと考えられる。
⑩		その他	指摘事項	治水計画の検討経緯や治水手法の選定経緯なども含めて、各種バックデータを参考資料として作成すること。
			対応方針	参考資料を作成。

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

指摘事項	対応
<p>① 常緑樹林化が進んでいるのでアカマツ群集が分布しているか確認すること。</p> <p>② 河口部における種の記述が不足しているのではないか。 本文p.2 第1章 河川整備計画の目標に関する事項 第1節 流域及び河川の概要 2. 流域の特性 3) 自然環境</p>	<p>①修文 アカマツについては、近年減少の一途をたどっており、モチツツジ-アカマツ群集の記述については削除</p> <p>②修文 河口部の種を追記</p>
<p>修正前（H28 第3回審議会資料）</p>	<p>修正後（案）</p>
<p>男里川水系での既往調査で、魚類は8科21種確認されており、大阪府レッドリスト2014で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイトモロコ、ドジョウ、ミナミメダカや、準絶滅危惧に指定されているタモロコ、ナマズ等が確認される一方、外来生物法により特定外来生物に指定されているブルーギルやオオクチバスも確認されています。</p> <p>底生生物は、57科127種確認されており、大阪府レッドリスト2014で準絶滅危惧に指定されているヒラテテナガエビが確認されています。そのほか、カワニナ、ゲンジボタルなどが確認されています。</p> <p>植生は、流域全体にモチツツジ-アカマツ群集が分布しています。</p> <p>また、男里川河口には大阪府内唯一の天然干潟が形成されており、野鳥や海の生物など貴重な生物の生息地となっています。</p>	<p>男里川水系での既往調査で、魚類は8科21種確認されており、大阪府レッドリスト2014で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイトモロコ、ドジョウ、ミナミメダカや、準絶滅危惧に指定されているタモロコ、ナマズ等が確認される一方、外来生物法により特定外来生物に指定されているブルーギルやオオクチバスも確認されています。</p> <p>底生生物は、57科127種確認されており、大阪府レッドリスト2014で準絶滅危惧に指定されているヒラテテナガエビが確認されています。そのほか、カワニナ、ゲンジボタルなどが確認されています。</p> <p>また、男里川河口には大阪府内唯一の天然干潟が形成されており、野鳥や海の生物など貴重な生物の生息地となっています。河口中洲のヨシ原では、フトヘナタリやクリイロカワザンショウ、ハクセンシオマネキ、ユビアカベンケイガニ、アシハラガニ等が多く見られます。鳥類では、ズグロカモメ、イカルチドリ、メダイチドリ、ソリハシシギ、キアシシギ、トウネン、キョウジョシギなどが見られます。ほかにも全国的にも希少とされるイボウミナナ、ヘナタリ、ウモレベンケイガニなども断続的に確認されています。</p> <p>モチツツジ-アカマツ群集の記述については削除</p>

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

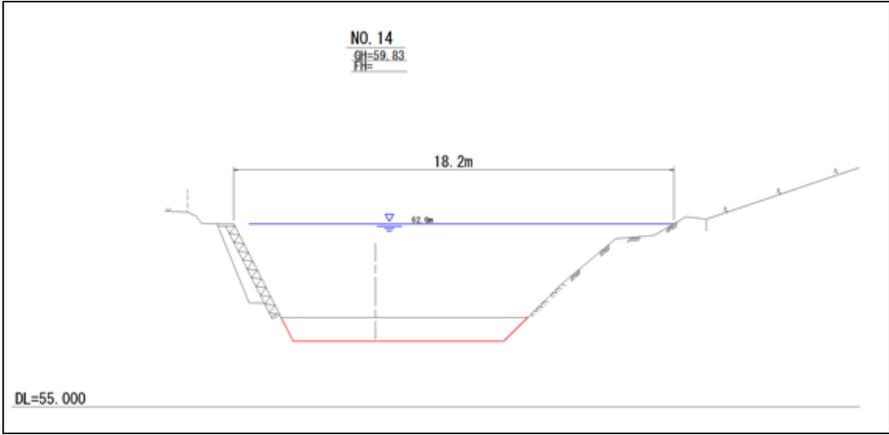
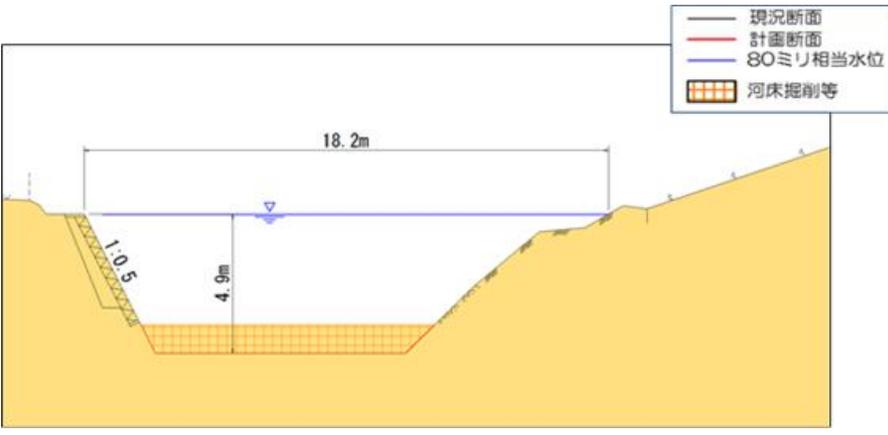
指摘事項	対応
<p>③ 脚注3) 4) 15) 19) の表現を修正すること。            本文p.7、11、20            第1章 河川整備計画の目標に関する事項            第2節 河川整備の現状と課題            1. 治水の現状と課題</p>	<p>③修文            男里川流域では泉南地区の計画雨量を適用する旨を記述</p>
<p>修正前 (H28 第3回審議会資料)</p>	<p>修正後 (案)</p>
<p>p.7脚注            8) 時間雨量80ミリ程度：100年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では、時間最大雨量79.3mm、24時間雨量309.0mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/100であること。            9) 時間雨量50ミリ程度：10年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では、時間最大雨量53.8mm、24時間雨量197.5mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/10であること。            p.11脚注            20) 時間雨量65ミリ程度：30年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では、時間最大雨量66.1mm、24時間雨量251.3mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30であること。            p.20脚注            24) 時間雨量90ミリ程度：200年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では、時間最大雨量86.9mm、24時間雨量342.0mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/200であること。</p>	<p>p.7脚注            8) 時間雨量80ミリ程度：100年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では泉南地区の計画雨量を適用し、時間最大雨量79.3mm、24時間雨量309.0mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/100であること。            9) 時間雨量50ミリ程度：10年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では泉南地区の計画雨量を適用し、時間最大雨量53.8mm、24時間雨量197.5mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/10であること。            p.11脚注            20) 時間雨量65ミリ程度：30年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では泉南地区の計画雨量を適用し、時間最大雨量66.1mm、24時間雨量251.3mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30であること。            p.20脚注            24) 時間雨量90ミリ程度：200年に1度程度発生する恐れのある雨量（男里川流域では泉南地区の計画雨量を適用し、時間最大雨量86.9mm、24時間雨量342.0mm）。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/200であること。</p>

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

指摘事項	対応
<p>④ 現状の問題点の記述に留まっている項目があるため、課題についても記述すること。</p> <p>本文p.9            第1章 河川整備計画の目標に関する事項            第2節 河川整備の現状と課題            2. 河川利用及び河川環境の現状と課題            (4) 景観・親水性</p>	<p>④修文            課題を記述</p>
<p>修正前 (H28 第3回審議会資料)</p>	<p>修正後 (案)</p>
<p>(4) 景観・親水性            男里川の国道26号より下流には高水敷が整備され、散策などに利用されています。また、河口付近は川幅が広く、野鳥の観察スポットとして有名です。            金熊寺川では、男里川合流点上流に親水施設がありますが、多くは農地を流下しています。上流部については、府道泉佐野岩出線の施工に伴い一部改修工事が行われていますが、多くは山間部を流下する自然空間となっています。            菟砥川、山中川では、河道内に発達した砂州には植生が見られ、緑の多い自然空間が形成されています。</p>	<p>(4) 景観・親水性            男里川の国道26号より下流には高水敷が整備され、散策などに利用されています。また、河口付近は川幅が広く、野鳥の観察スポットとして有名です。            金熊寺川では、男里川合流点上流に親水施設がありますが、多くは農地を流下しています。上流部については、府道泉佐野岩出線の施工に伴い一部改修工事が行われていますが、多くは山間部を流下する自然空間となっています。            菟砥川、山中川では、河道内に発達した砂州には植生が見られ、緑の多い自然空間が形成されています。  <u>各河川において、地域住民のニーズに応じて親水性を高める工夫等を行う必要があります。</u></p>

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

指摘事項	対応
<p>⑤ 男里川は現状で水質が良いので「水質の維持」と表現すべきではないか。 本文p.10 第1章 河川整備計画の目標に関する事項 第3節 流域の将来像</p> <p>⑥ 自然環境について、河川整備基本方針では「保全・創出」となっているが、河川整備計画では「保全・再生」となっている。 本文p.13、21 第1章 河川整備計画の目標に関する事項 第4節 河川整備計画の目標 3. 河川環境の整備と保全に関する目標</p>	<p>⑤修文 「水質の改善」⇒「水質の維持」</p> <p>⑥修文 「保全・再生」⇒「保全・創出」</p>
<p>修正前（H28 第3回審議会資料）</p>	<p>修正後（案）</p>
<p>大阪府の土地利用計画では、河川に関連して、水資源の確保や災害防止の観点から、地域や流域の特性に応じた適切な維持管理、改修、整備を行うほか、生物の多様な生息・生育・繁殖が確保できる自然環境の保全、<u>水質の改善</u>を図る、緑化の推進や親水空間の創出を進める等、水辺環境の改善を図ることとしています。</p> <p>（3）自然環境 男里川水系では、多くの水生生物等が生息しており、良好な自然環境が残っています。また、河口に形成される干潟は大阪湾内でも指折りの規模を持ち、埋め立てによる沿岸開発が過度に進んだ大阪湾内にあつて、非常に貴重な干潟環境となっています。瀬や淵などの河川特有の自然環境が残る箇所について、今後の河川管理の際にはそれらの保全を目指します。また、多自然川づくりを取り入れ、それぞれの河川が本来有している生物の<u>生息・生育・繁殖環境の保全・再生</u>を目指します。</p>	<p>大阪府の土地利用計画では、河川に関連して、水資源の確保や災害防止の観点から、地域や流域の特性に応じた適切な維持管理、改修、整備を行うほか、生物の多様な生息・生育・繁殖が確保できる自然環境の保全、<u>水質の維持</u>を図る、緑化の推進や親水空間の創出を進める等、水辺環境の改善を図ることとしています。</p> <p>（3）自然環境 男里川水系では、多くの水生生物等が生息しており、良好な自然環境が残っています。また、河口に形成される干潟は大阪湾内でも指折りの規模を持ち、埋め立てによる沿岸開発が過度に進んだ大阪湾内にあつて、非常に貴重な干潟環境となっています。瀬や淵などの河川特有の自然環境が残る箇所について、今後の河川管理の際にはそれらの保全を目指します。また、多自然川づくりを取り入れ、それぞれの河川が本来有している生物の<u>生息・生育・繁殖環境の保全・創出</u>を目指します。</p>

指摘事項	対応
<p>⑦ 図面を分かりやすく修正すること。            本文p.16            第2章 河川整備の実施に関する事項            第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要            1. 洪水対策</p>	<p>⑦修正            図面を修正</p>
<p>修正前 (H28 第3回審議会資料)</p>	<p>修正後 (案)</p>
	

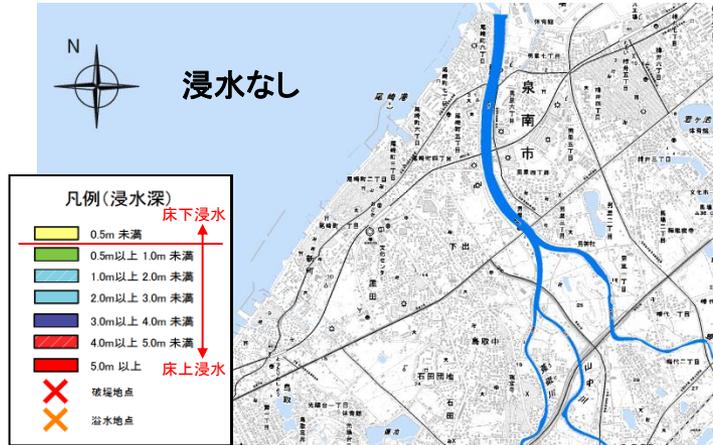
# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

指摘事項	対応
<p>⑧ 森林の保全やため池の維持管理についても記述すること。 本文p.21 第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項 第1節 地域や関係機関との連携に関する事項</p>	<p>⑧修文 記載内容を修正</p>
<p>-----</p> <p>修正前 (H28 第3回審議会資料)</p>	<p>-----</p> <p>修正後 (案)</p>
<p>p.21 治水施設による対応には限界があることから、行政指導により開発者が開発行為に起因する流出増分を抑制するために設置する流出抑制施設を下流の河川整備後も恒久的に存続させる制度などについて今後検討することや、<u>流域のため池の活用検討など、雨が降っても河川に流出する量を減らすための流出抑制に取り組みます。</u>併せて、河川氾濫や浸水が起こった場合でも被害が最小限となる街づくりに向けた家屋の耐水化や望ましい土地利用のあり方等の検討を行います。</p>	<p>p.21 治水施設による対応には限界があることから、行政指導により開発者が開発行為に起因する流出増分を抑制するために設置する流出抑制施設を下流の河川整備後も恒久的に存続させる制度などについて今後検討することや、<u>関係部局と連携し、流域のため池の適正な維持管理及び活用検討、さらには森林の保全など、雨が降っても河川に流出する量を減らすための流出抑制に取り組みます。</u>併せて、河川氾濫や浸水が起こった場合でも被害が最小限となる街づくりに向けた家屋の耐水化や望ましい土地利用のあり方等の検討を行います。</p>

指摘事項	対応
<p>⑨ 金熊寺川の整備による下流の男里川への影響を確認すること。</p>	<p>⑨男里川は現況で1/200の安全度があるため、下流への悪影響はないと考えられる。</p>
<p>⑩ 治水計画の検討経緯や治水手法の選定経緯なども含めて、各種バックデータを参考資料として作成すること。</p>	<p>⑩参考資料の作成 男里川水系河川整備計画（参考資料）を作成</p>

## 男里川の現況評価 (H27.3.2 治水専門部会資料より)

時間雨量53.8ミリ (1/10年)



時間雨量79.3ミリ (1/100年)



時間雨量66.1ミリ (1/30年)



時間雨量86.9ミリ (1/200年)

